

采女城跡保存会

発足の経緯

地元では古くから、采女城は織田信長に滅ぼされ、落城の際お姫様が井戸に身を投げたとい話が伝わり、子どもたちは城山のでっぺんに立っているノッポの木が揺れているとお姫様が泣いている、怨霊で揺れている」といって眺めたり、また古井戸に行った貝家の人が馬に乗った二人の侍に追いかけられたという古い話を祖母から聞いたなどの言い伝えが伝わり、地元の人には身近な存在であった。

昭和 20 年代までは地元の里山として薪燃料や肥料の採取地として、また松茸や茸の採集などに利用されていたが、昭和 30 年代以降高度成長時代に入ると山林の利用価値がなくなり、以後 40 年あまり手入れのされないまま松林は枯れ、雑木林にネザサが 2～3m の丈となって密生し、足の踏み入れ様もない有り様となっていた。

内部地区内の有志から「三重県下でも例をみないほど戦国時代の城砦の構造をよく残している地域の貴重な遺産を整備して後世に引き継ぎたい」という声が上がリ、平成 14 年 10 月采女城跡保存準備会を設立、その後本丸跡（一の郭）の整備を中心に進め、**平成 15 年 6 月 7 日采女城跡本丸跡において采女城跡保存会設立総会を開催**し会員数 41 名でスタートした。

采女城跡の保全については先覚者秦茂一氏を会長とする「**内部郷土史研究会**」の諸氏が鋭意城主後藤氏の歴史について研究されたが、会員の高齢化によりその活動は停滞気味であったのを引き継ぐ形となった。なお城跡登り口にある「采女城跡」の石碑は内部郷土史研究会が設立したものである。

活動の内容

- ・城跡の整備（毎月 1 回定例作業）
 - 笹の除伐、雑木の間伐、枯れ倒木の整理
 - 遊歩道整備、橋・木道取付、安全柵取付
 - 名札、遺構の説明板設置、樹木名札取付
- ・城跡の活用（適宜）
 - 小学校・中学校の野外体験授業、歴史授業の場として提供および講師
 - 城跡から南部丘陵公園に続く広域散策道として整備
 - 四日市市市民緑地としての運用
- ・郷土遺産への関心を高めるための活動（各々年 1 回）
 - 保存会広報紙「采女城通信」の発行
 - 歴史講演会開催
 - 史跡見学会（歴史をたずねるバスツアー）開催
- ・調査・研究（郷土史研究会の意思を引き継ぎ）

・史跡指定に向けた活動

上記の活動を通じて采女城跡の意義・重要性を広く市民に訴え、地権者の了解を得たうえで「史跡指定」を目指す

采女城通信発行

創刊号 平成 16 年 12 月 25 日

第 2 号 平成 17 年 5 月 14 日

第 3 号 平成 18 年 5 月 28 日

号外版 平成 18 年 9 月 21 日

第 5 号 平成 21 年 5 月 11 日

第 6 号 平成 23 年 4 月 21 日

歴史講演会開催

平成 15 年 (2003) 「采女城跡の歴史と城の構造」

駒田三重県教育委員会文化財保護室副参事

平成 16 年 (2004) 「郷土の文化財の保護と活用について」

和田四日市市立博物館長

平成 17 年 (2005) 「歴史の虚像と実像」

小玉道明三重大学講師

平成 18 年 (2006) 室町・戦国期の北伊勢～国人の動向

飯田良一津西高校教諭

平成 19 年 (2007) 「中世の「城館」と「屋敷」

伊藤裕偉三重県教育委員会文化財保護室

平成 20 年 (2008) 「自治体史と地域の資・史料について」

森逸郎元四日市市市史編纂室長

平成 21 年 (2009) 「北伊勢の城と采女城」

伊藤徳也三重県立川越高校教諭

歴史を訪ねるバスツアー (内部地区社会福祉協議会共催)

平成 16 年 (2004 年) 「伊吹町「京極氏城館跡(上平寺)」

平成 17 年 (2005 年) 「安土城跡」と信長の館・八日市風博物館

平成 18 年 (2006 年) 「日本三大山城、女城主の「岩村城址」

平成 19 年 (2007 年) 「武田と徳川攻防の城「高天神城跡」

平成 20 年 (2008 年) 「中世の城跡「佐久良城址」と国宝彦根城

平成 21 年 (2009 年) 「伊賀「丸山城址」と上野城

平成 22 年 (2010 年) 「水上城址」・大池寺と琵琶湖博物館

平成 23 年 (2011 年) 「田丸城跡」探訪と伊勢神宮内宮参拝

以上